

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670400185号		
法人名	社会福祉法人 明星福祉会		
事業所名	南方園グループホーム けやきの里		
所在地	鹿児島県 枕崎市 まかや町 679番地 (電話) 0993-76-3461		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市 星ヶ峯 4-2-6		
訪問調査日	平成21年3月10日	評価確定日	平成21年3月28日

【情報提供票より (平成21年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤7人、非常勤	0人、常勤換算7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建て	1～	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有() 円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 200 円
	夕食	200 円	おやつ 円
	または1日当たり		600 円

4) 利用者の概要 (2 月 10 日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	83歳	95歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	サザン・リージョン病院、ウエルフェア九州病院、山之内歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

薩摩半島の南部に位置し広大な茶畑の中に、特別養護老人ホームと、同敷地内にグループホームをはじめ、デイサービスセンター・生活支援ハウス・地域交流センターなどがある。地域住民に開放された地域交流センターの温泉を利用する住民との交流など、地域福祉の貴重な拠点の一つになっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部研修会や法人内の勉強会に積極的に参加しており、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を実施することの意義を全職員が理解し、全員で取り組んでおり、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者や家族等・行政の担当者・地域住民が参加。2ヶ月ごとに開催し近況や内外の評価の報告等を行い、運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や行事の折に、気軽に話しやすい雰囲気をつくり、意見や要望などを伺い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敷地内にある生活支援ハウスや地域交流センターへの参加者と交流を図っている。また散歩や買い物時にも、住民とのふれあいができている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりを主体とした理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は日々の朝礼時に理念を唱和し、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敷地内にある隣接の地域交流センターや支援ハウスに出かけたり、散歩や買い物時にも地域住民とのふれ合う機会を多くもつように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をする意義や外部評価の結果を職員全員が認識し、評価を活かしてケアの改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者や家族等・行政の担当者・地域住民が参加し、2カ月ごとに開催している。近況や内外の評価の報告等を行い、出された意見を運営に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当者に毎月報告をしたり、地域包括支援センターの職員も立ち寄り、意見を交換し合いサービスの向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム通信「けやきだより」や毎月の請求書送付時に近況報告を行ない、また面会時には金銭出納簿の確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が運営推進会議や面会に来られた折に、要望や意見を伺い、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動時には、十分に引き継ぎ期間を設け、ダメージを最小限に防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われる法人全体の勉強会や月2回ホームの勉強会・外部研修会に積極的に参加し、資格取得にも意欲的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ敷地内にある交流センターで近隣グループホームとの交流会を行い、研修や情報交換をして、サービスの質向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族や本人に見学してもらい、部屋の環境や食事の様子などを見た上で、家族と相談しながらスムーズにサービスを開始できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の人生経験を活かし、野菜作りやそば打ちなどを教えてもらい、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の本人のしぐさや会話から、思いや希望の把握に努め、困難な場合は家族からの情報をもとに、入居者本位のケアを心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や入居者・職員を交え、入居者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月ごとにモニタリングを行い、変化があった場合は、話し合いのもとで現状に即した介護計画を新たに作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況や家族の都合に応じて、買い物や墓参りなど、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医や事業所の協力医と連携を取り、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、家族に「家族の今後の意向について」の書面で、重度化した時のことなどを謳っている。関連施設のかかりつけ医等の関係者と話し合うことで方針の共有に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライドを傷つけないように言葉使いにも注意を払っている。個人情報に関しても勉強会の中で確認しあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者をはじめ職員は業務の流れを優先することなく一人ひとりのペースに合わせたケアをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力量に応じて配膳や後かたづけなどをしてもらい入居者と職員が楽しみながら一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴と決めているが、その時の状況や希望によりいつでも入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中でその人の生活歴や力量を勘案し、ゴミ捨て・おしぼり配り・おぜん拭き等の役割をしたり、天気の良い日はベランダや木陰のベンチで、犬と戯れながらくつろぐなどの気晴らし、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩や買い物のほか、天気の良い日はドライブ・墓参りなどをしたり、また戸外の木陰のベンチでお茶を飲んだりするなど外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の行動パターンを把握しており、雰囲気を感じたら一緒に付き添って散歩し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民・消防署・併設施設と連携のもと、定期的に防災訓練や避難訓練を行っており、非常用食品、水なども準備されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連施設の栄養士にチェックしてもらいアドバイスをもらっている。また日常的に食事や水分摂取量を記録し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やホールには自然の光が入り、和やかな雰囲気がある。季節の花が飾っており、ベランダには愛犬が飼われ、入居者が居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は在宅からの人が殆どであり、使い慣れた家具や布団・家族の写真などが飾られ、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。